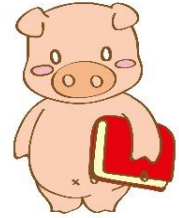




# らいぶらりい

倉吉北高校図書館  
2017.12.7



## よく読まれた本 2017

「SLAM DUNK」井上雄彦著  
「聲の形」大今良時著  
「蒼太の包丁」本庄敬著  
「義男の空」エアードライブ著  
「テルマエロマエ」ヤマザキマリ著

「君の居ない世界で」元田有著  
「総長のお気に入り。」COCO 著  
「hands 命をかけて、愛してた」やっぴ著  
「きみに、好きといえる日まで。」ゆいっと著  
「駅彼」くゆいあゆ著

上から5タイトルはマンガ本。  
小説もたまには読んでほしいですね。

そして不動の人気を誇る、「ケータイ小説」。



マンガには学ぶことも多く、そしてわかりやすいという良い面があります。本校図書館でマンガの収集と貸出をしているのはその良い面を考えたことです。マンガに関わらずどの本も同じですが、授業中に読んだりまた貸しをしたりしないでください。借りた本は責任をもって管理をし、決まりを守って読書を楽しんでほしいです。

## 冬至 12月22日

冬至は1年でもっとも昼が短く夜が長い日です。ゆず湯に入って無病息災を祈ります。また「ん」が付く食べ物を食べると運がつくといい、「なんきん(かぼちゃ)」「にんじん」「れんこん」「かんでん」「うどん」「きんかん」「ぎんねん」を「冬至ななくさの七種」と言うようです。かぼちゃを冬至に食べると風邪を引かないと言われていいますので、かぼちゃを食べましょう。

またゆず湯の習慣は江戸時代より始まったようです。ゆずの香りで邪気を払い、元気に体の融通(ゆず)が利くように、という願掛けのようです。冷え性や腰痛の改善、美肌効果もあるので乾燥する冬にぴったりですね。

## クリスマスに手料理を

クリスマス、大晦日、お正月・・・  
いつもと違う料理に挑戦してみては？

「イチバン親切な教科書シリーズ」  
スープとシチュー・イタリア料理  
「本当においしく作れるシリーズ」  
洋食・イタリアン・和食・肉料理  
「大人気料理家 50 人のニッポンのおかず Best500」  
「オレンジページ好評シリーズのもっとも人気の高かったレシピを一冊にまとめました。」  
「別冊きょうの料理  
つくり続けたいお菓子」  
「パウンドケーキバイブル」  
このほかにもレシピ本あります。

# 新 着 図 書

「見えないから見たもの」 竹内昌彦著
「転生したらスライムだった件②③④」 伏瀬著
「好きで好きで、どうしようもない恋はいつもどうにもならなくて」 Sleep 著
「吾が身をもって、叶えよと 陰陽師安倍晴明」 結城光流著
「この夢がさめても、君のことが好きで、好きで。」 小春りん著
「ふたご」 藤崎彩織著
「ヒカルが地球にいたころ・・・六条」 野村美月著
「今日、きみと息をする」 武田綾乃著
「放課後、ずっと君のそばで。」 あちゃみ著
「雨宿りの君たちへ」 小春りん著
「弟の夫①～④」 田亀源五郎作
「蒼太の包丁④～⑧」
「農学が世界を救う！」 生源寺眞一ほか著
「臨床工学技士の一日」
「診療放射線技師の一日」
まんがで読破「坊ちゃん」「檸檬」「西遊記」
「大学受験小論文面接の時事ネタ本 看護・医療・介護系編」
「大学受験小論文面接の時事ネタ本 保育士・幼稚園教諭系編」
「ニッポンの刑事たち」 小川泰平著
「マジ文章書けないんだけど」 前田安正著
「これならわかるスッキリ図解障害者差別解消法」 二本柳覚著
「まんが四字熟語大辞典」 笹原宏之監修
「文藝春秋 2018 年の論点」
「現代用語の基礎知識 2018」

## 「ふたご」

藤崎彩織著

ご存知の方も多いと思いますが、著者は「SEKAI NO OWARI」のピアノ奏者の Saori です。バンド継続の苦難を描いた作品です。fukase (ボーカル) の実人生が描かれている場面も登場するとか?・・・セカオワファンにとどまらず、一つの小説として評価されていることも事実。どんな本だろう?と思ったら図書館へどうぞ。

## 「ニッポンの刑事たち」小川泰平著

刑事ドラマや小説は好きですか?でも実際の刑事たちの仕事って?刑事になるにはまず警察に入ります。そこから警察学校で様々な勉強をします。神奈川県警で刑事をしていた著者は、刑事に向いている人は「我慢強くて粘れる。諦めない」人だと書いています。案外刑事の仕事は地味で細かな作業なのかもしれませんね。

今年の流行語大賞は・・・「<sup>そんたく</sup>付度」「インスタ映え」

この流行語大賞ってどう選ばれているか知っていますか?

「自由国民社」という出版社から出ている「現代用語の基礎知識」の中に収録されている語句をベースに30語ほど候補を選びます。その中で最も世間ではやり影響があった語句を大賞として表彰をします。



## 「マジ文章書けないんだけど」前田安正著

著者の前田氏は朝日新聞社の編集や校閲を長年にわたってしてきた人。国語問題や漢字についてのコラムなども執筆されている。いわば文章のプロ!

「文章書けない」人はマジでヤバいです。今だけじゃない、意外と文章を書く機会は多いし、就職するときだって書けなきゃいけない。「書けない」なんて言ってもらえないよ。ぜひ、この本を読んでみて。文章が書けるようにきっと、なる!